

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2011年8月

平成22年度規格部会報告

規格部会(ISO/TC 61, ISO/TC 138及び電気材料安全関係)は、日本工業標準調査会(JISC)標準部会策定の「平成18年度標準化政策」、経済産業省策定の「国際標準化戦略目標(平成18年11月)」及び「化学分野における国際標準化アクションプラン(平成22年4月改訂)」に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。

ここでは、平成22年度の活動実績および平成23年度の活動計画を紹介する。

1. 国際幹事国引受け

現在、4件の幹事国を引き受けているが、内容の充実を図りながら引き続き遂行していく。

平成22年度からANSI(米国)が幹事国を務めていたTC61(プラスチック)、TC61/SC5(物理・化学特性)、TC61/SC9(熱可塑性プラスチック)を2010年で辞退し、TC61が中国、TC61/SC5がドイツ、TC61/SC9が韓国に変わった。

今後、すぐに、幹事国を獲得することは、現状では予算などの点で困難であるが、各企業・団体会員への標準化活動への一層の協力も得ながら、コンビナー人材の発掘等を進め、キーSCの幹事国獲得へ向けての基礎固めを行っていく。

2. 国際幹事国活動

TC 61/SC 11(プラスチック製品)、SC 12(熱硬化性樹脂)、SC 13(複合材料及び強化用繊維)およびTC 138(プラスチック管、継手およびバルブ類)の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を進める。

今年度は、ISO/TC 61国際会議は、マレーシア・クアラルンプール(9月26日～9月30日)で、ISO/TC 138国際会議は、オランダ・アムステルダム(10月25日～10月28日)で開催される。日本が議長を務めるSC 11、SC 12、SC13及びTC138の会議の円滑な開催・運営を図る。

3. 国際標準開発活動

平成22年度のTC61の審議件数は、190件弱、TC138は100件弱と例年並みであるが、規格開発プロジェクトは、100件程度あるが、内約50件が日本発の国際提案であり半数を占める、TC61内の日本での地位が拡大していることを示している。

特に、リサイクルなど環境対応規格の開発案件は7件あり、また2件が予備提案中である。これらは全て日本提案で、他の国からの同分野の提案は皆無で、日本がリードしている。

平成23年度は、幹事国業務(3SC, 1TC)の活動の充実。国内委員会活動の活性化、コンビナー人材の育成を継続する。

4. 研究開発テーマ

平成22年度は、研究開発テーマがNEDOに移管され、採択されたのは継続の「再生混合ポリオレフィンに関する標準化」のみとなった。また、国際標準開発研究として「まくらぎの標準化」を実施した。

平成23年度は次の4件の国際標準開発を行う。

①PP/PE再生品に関する標準化

- ②強化プラスチック材料の試験方法に関する標準化
- ③薄膜等高性能プラスチックの物理・化学的試験方法に関する標準化
- ④プラスチックまくらぎに関する国際標準開発

4. JIS 原案作成活動

平成 22 年度から3期制から2期制となり次のように原案を作成した。

前期:4件の JIS 原案を作成

後期:7件申請したが、経産省のヒヤリングで1件を取り下げ6件の JIS 原案を作成する。

平成 23 年度もテーマの厳選及び事前準備の着実な実行を継続する。

5. 電気材料安全・規格関係

JEITA との連携及び CMJ への委員派遣などにより、電気製品の安全規格及びプラスチック関連試験規格の制定並びに改訂の動向を把握すると共に、業界の意向反映を行ってきた。

平成 23 年も、国内団体と連携し IEC 及び UL への国内意見の提言・フォローを継続する。

以上